



〒954-0052

見附市学校町 2 - 7 - 9

電話/Fax 0258-62-2343

E-mail mrisen@mitsuke-ngt.ed.jp

令和 2 年 7 月 2 2 日 NO.4

(写真は 7 月 1 3 日撮影)

朝顔が今盛りです：見附小学校



エッ！今更？『なぜ、今、小学校で外国語を学ぶのか』

嘱託指導主事 磯部 徹

先日、趣味の「鮎釣り」の本を探しに書店に行くと、表題の書籍（直山木綿子視学官監修）が目にとまりました。

私がかつてA市で英語関係の仕事をしていた時、市は国に教育特区を申請し、全小学校に教科『国際科』を設けました。2011年の外国語活動導入の数年前で、「国際競争に勝つには英語力が不可欠！」「母語の習得や他の学習を阻害する！」などの激論が盛んに、交わされていた頃です。A市の先生方には「総合や生活科の時間を削って、なぜ今外国語？」の思いも少なからずあったようです。

国際科の開始後、直山さんに講演をお願いした際に質問をしました。「今回の導入はゴールなのか、学年拡大や教科化へのスタートなのか？」明確な答えはありませんでした。

あれから約10年。先生方が児童と楽しそうに活動を楽しんでいらっしゃる姿ばかりを目にする今、そして外国語を学ぶ意味について広く周知された今。ここに至って、なぜこのタイトルの本なのかと思い購入してみました。

特に興味深かったのは、著者の外国語科への期待や、「授業についていけない？」「塾に行かせなくても大丈夫？」などの不安を抱いている保護者へのメッセージです。

『英語を使えるようにするには幼少期から母語でたっぷり話しかけ、子どもと母語でやりとりをしてほしい』『「学校で先生や友だちと英語を使って、自分の考えや気持ちを伝え合って楽しかった」という思いを家庭内で共有してほしい』と言っています。相手の心に届けるべき自分の考えや思い、そして、それを伝えられるだけの母語の力、学ぶ意欲がないと外国語を獲得するのは難しい。保護者の我が子との接し方が重要である、というメッセージでした。

ところで、若者やタレントがよく使う『やばい』の汎用性の高さに憤然としています。うまい？まずい？嬉しい？怖い？美しい？

子どもたちが、親との温かい会話や対話・表現場面のある授業を通して、単語一つで済ませようとする愚かさや根拠を示して説明することの大切さに気付くつつ、グローバル社会に通用するコミュニケーション能力も高めてくれることを期待します。



巻頭写真に寄せて—見附市の花を育てる原点は「見附小学校にあり！」—

◇見附小学校の中庭に、一年生が生活科で大切に育てている朝顔が、今盛りに咲いています。80鉢近くあり誠に美しいです。中には伸びた蔓が、隣の鉢に絡みつき「朝顔につるべとられてもらい水」(江戸時代の俳人：加賀の千代女)を思い起させるものもあって、ほのぼのとした気持ちにさせられます。◇さて、見附市はどここの学校に伺っても、花壇や玄関入口に花が育てられ、学校生活に潤いを与えたり、訪れる者を温かく迎えてくれたりしています。これは、見附市が16年前から「みつけお花いっぱいコンテスト」を開催して、市全体で緑化活動を頑張っていることが大きいです。さらに、これ以前、見附小学校では「全国花いっぱいコンクール」に参加をして、平成13年の『内閣総理大臣賞』受賞など、大きな賞を4回も受賞しています。見附小学校の花壇を見る度に、「花を育てる原点はここにあり！」との思いで見えております。

コラム 中学校もすごい！・・・「中学校の授業に学ぶ」



M小1年：算数

N中2年：数学

N中2年：体育

N中2年：数学

◇7月に入り梅雨の中、連日、充実の「師がく」訪問をさせて頂きました。どの授業も、授業者の質の高い指導や支援が行われ、子どもたちが真剣に学び合い、落ち着いた雰囲気の中で、考えたり運動したりの良い授業でした。特に、中学校での一人一人に寄り添う授業には、自分の立場を忘れ、一緒に学習に参加させて頂くことが多かったです。◇左は、M小学校K教諭の1年算数「なんばんめかな」の授業です。25名の子どもは色々です。集中させるための果物カードや動物カード。気になる子どもへ何気ない支援。座席表に一人一人の考えを素早くチェック。子どもたちを揺さぶる問いかけ。ドリルをやり、まとめまで凄すぎます。明るく笑顔を絶やさぬ姿に、プロ教師を見ました。◇隣の写真からはN中学校です。M教諭の2年数学「連立方程式」です。自分で問題を作成し、構造的に理解をする学習。最初は個人で考える。どうしたらよいか困っている子どもへ寄り添っての支援。次に班毎に、共通点をまとめて分類する。各班への声掛け。『見極めた基準は何?』で、空気がビシッと締まりました。◇N教諭の2年体育「体づくり運動」で、動きの習得のコツやポイントを互いに教え合う授業。運動は、こうすると楽しく頑張れるのかを体感しました。それ以上に、配慮が必要な子どもへ気遣いの一言に感動しました。◇A教諭も2年数学「連立方程式」です。A教諭は、既習事項との違いを考えさせ、子どもの意見を生かした授業。座席表を持ち、腰に筆記用具で机間巡視。「子どもたちの考えを残らず拾うぞ」がビシビシ伝わります。Ipadで全員へ共有。授業が楽しいです。一緒に学びながら、質の高い指導が『確かな学力の定着を生む』を実感しました。きめ細かく一人一人に寄り添う指導が、中学校で行われています。(こ)

4時から夢塾 「生活習慣病にならないために」

第6回「4時から夢塾」を7月8日(水)、新潟大学医歯学総合病院の小川洋平医師から「子どもの生活習慣の改善」をテーマに講話を頂きました。簡単に紹介します。

1 生活習慣病とは 食習慣，運動習慣，休養，喫煙，飲酒等の生活習慣が，発症・進行に関与する疾患群のこと。

⇒ 問題のある生活を続けることで起こる病気。

資料を説明する小川医師

2 小児肥満に伴う問題 ・身体的特徴，運動能力の問題，不登校・いじめなど
・糖尿病，高血圧，脂質異常症は「動脈硬化」も引き起こす。

3 生活リズムと健康 ・人の体は一日単位のリズムを持っている。

・日本人の睡眠時間は年々減少をしている。眠りを疎かにすると

肥満・糖尿病・高血圧を引き起こす。また病気にかかりやすい。

・睡眠時間と学力に相関関係あり。睡眠時間が長いほど成績が良い。

4 成長を考慮した生活習慣病予防（見附市が実施している小児生活習慣病健診）

・小児生活習慣病健診の目的は，健康教育と自立の促進や生涯の生活の質の向上等。

・対象者と家族，学校，行政機関，医師会，検査機関等，関係協力機関の連携が大事。

・学校保健安全法施行規則が「成長の評価は身長曲線・体重曲線が重要である」と改正。

5 食習慣と生活習慣病 ・悪い食事，良い食事

・食べ過ぎは，肥満，糖尿病，脂質異常症，高血圧，脂肪肝，痛風の要因になる。

・欠食をしない。食べ過ぎない。自分のちょうどよい体重を知り，増え過ぎないこと。

・油っこいものの食べ過ぎは，肥満，脂質異常症，大腸がん，乳がんを引き起こす。

・塩分の取り過ぎは，高血圧，胃がん，脳卒中のもと。和食を選択し薄味に慣れること。

・野沢菜の長野県は，以前，塩分過多で病気になった。薄味の漬物で長寿県になった。

・野菜不足は，肥満，動脈硬化，大腸がん，便秘になる。野菜を積極的に食べること。

6 運動と健康（好ましい運動・無理なく，楽しく，継続できるものが良い）

・朝ごはんの効果・飢餓状態の改善。咀嚼によるリズムカルな運動による効果がある。

7 まとめとして ・生活習慣病にならないために，家族みんなで取り組むことが大切。



<参加者の声>

・子どもたちの健康な生活のために，生活習慣病予防指導の大切さを改めて感じた。

・長野県が子どもの時から，薄味を習慣付けて，長寿県になった話が興味深かった。

・メタボリックドミノを見て，生活習慣や肥満が多くの病気の起因であるがわかった。

・糖尿病を詳しく教えて頂き怖さがわかった。生活リズムを整える生活習慣が大事だ。

・自分自身が，子どもたちの手本となる食習慣，運動習慣を送ることを目指したい。

4時から夢塾 「適切なアセスメント(評価)による支援」

第7回「4時から夢塾」は7月15日(水)に、見附小学校の発達通級指導教室の星野泰子先生から、「適切なアセスメント(評価)による支援～出会った子どもから学んだこと～」をテーマに、指導を頂きました。



1 はじめに ～4例に絞った話をします～

- ・認知は頭の中のこと⇒情報がどう入ったかは見えない。味覚過敏があって食べない子ども。
- ・特別支援の仕事をしたい。内地留学で新大の長澤正樹先生に「応用行動分析」を学んだ後、千手小、小千谷小、見附小の発達通級指導教室で、300人以上の子どもに関わってきた。

2 事例1 友だちをすぐにたたく太郎くん ○ABC分析と機能分析に基づいた適切な行動

- ・困った子は困っている子・自然な形で学習がしにくく時々不適切な行動を学習してしまう。
- ・ABC分析・先行条件(事前の出来事)と結果事象(結果)から、行動を分析すること。
- ・問題行動を記録する・誘発している事象は何か。行動を増やしている対応は何かを整理。
- ・問題行動には意味があり、それぞれにあった対応を！・子どもの行動を機能分析する。
⇒ 問題行動の機能(意味)・1要求 2逃避 3注目 4自己防衛 5自己刺激

3 事例2 授業中に座ってられない二郎くん

- 行動の記録に基づいた目標設定と評価基準
- ・実態把握・「いつ起きやすいか。起きにくいかな。」この記録が大事。
- ・個別の指導計画・学習のルールの指導。できそうな課題にすることが大事。



4 事例3 すぐイライラしてしまう三郎くん

- イライラのスケール化に基づいたアンガーマネジメント
- ・ストレスにはレベルがある。イライラときは自分でブレーキを。大事なものは「対策」。

5 事例4 読み書きが苦手な四郎くん

- 読み書きのアセスメント検査に基づいた支援 ～「見る力」「読み書き」のアセスメント～
- ・担任・授業は見通しをもたせる。本人の行動や思いを友だちに通訳する。
- ・通級指導教室・認知特性に応じた学習指導。ソーシャルスキルトレーニング(グループ・個人)

6 まとめとして・子どもの指導で大切なもの

- ・発達には自発的な活動が重要。 ・成功体験をすることで自発性や能動性を維持する。
- ・負の感情(わからない, できない, かなわない)から問題行動 ⇒ 発達の停滞, 進行。
- ・今できることを大切に広げる。 ・早期発見・早期対応をする。



- <参加者の声>** ・実態を見極める大切さ。問題行動には意味がある。なぜ、そうしているのか、その行動を起こすわけは何か・これらのこと大切さについて学び直しをさせてもらった。
- ・問題行動の分析の仕方が分かった。記録の仕方も教えてもらい、やってみようと思った。
 - ・具体的な対応の仕方、特に感情のコントロールができない子どもへの対応が参考になった。
 - ・子どもの行動には、常に理由があるということを中心に留めて、子どもたちに接していきたい。
 - ・子どもを知るにはどのようにすればよいか、具体的な手立てを伺う事ができ、ためになった。

7月

科学教育部



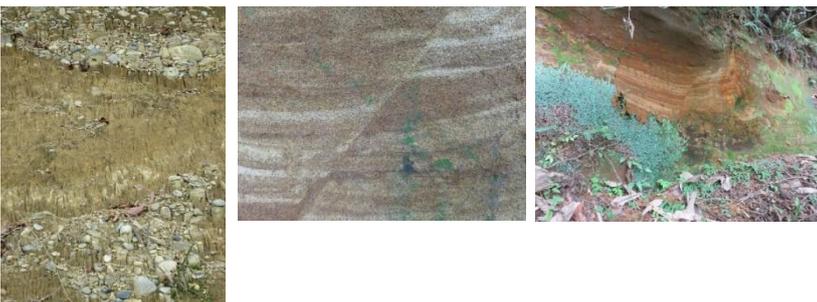
《今月の1枚》 ネム/キ

【野外「地層観察」研修案内】

昨年度、問い合わせの多かった地層について観察する研修を設定しました。今回の研修では市内の露頭3か所を候補にして、地層観察を実施する予定です。自然のダイナミックな働きによりできた地層について、児童・生徒に本物を見せてあげられると、印象的な体験になるかと思えます。学校によっては、近くに露頭が見られない地域も多いですが、見附市内では、いくつか特徴的な地層を見ることができます。野外研修後は、小6単元「大地のつくりと変化」について研修を行います。片方みの参加でも大歓迎です。追加で参加希望される方は、教育センターまでご連絡ください。

1	野外「地層観察」	8月20日(木) 13:30~15:00	見附市内で児童・生徒を連れて観察できるような露頭を紹介します。 (小栗山方面・椿沢方面・杉沢方面の露頭を予定しています)
		↓	
2	小6 「大地のつくりと変化」	8月20日(木) 15:20~16:20	水のはたらきによる堆積の仕方を学び、地層のでき方と層の種類の違いによる岩石について研修します。

【小栗山の地層】



新潟小学校区にある中部北陸自然歩道沿いに見ることのできる正断層です。正断層は大地を引っ張る力が働いて、すべり落ちてできた地層です。この地層から先に歩いて行くと、越後平野を一望できます。

【椿沢の地層】



田井小学校区にある砂岩と泥岩の互層です。道の左右に傾きがある露頭があり、地層のつながりや広がりを感じることができます。

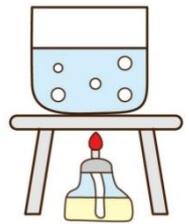
【杉沢の地層】



第二小学校区にある砂岩と泥岩の互層です。白っぽい火山灰を含んでいるのも特徴です。少し林に入ったところにあり、観察に難しさもあります。

【科学研究発表会・夏休み作品展を開催します】

県のいきいきわくわく科学賞が、例年通り開催されます。見附市の科学研究発表会と夏休み作品展も実施します。新型コロナウイルス感染症対策をした上での実施になります。詳しくは、各校に要項を配付しています。短い夏休みの期間ではありますが、児童・生徒が科学に触れる良い機会となればと考えています。ご指導よろしくお願いたします。



第56回 見附市児童生徒 科学研究発表会

自由研究は楽しいよ!!

身近なところに不思議がいっぱい!!

大発見があるかもしれないぞ!!!

観察や実験で、確かめてみよう!!

《小学校の部門》

《中学校の部門》

低学年 中学年 高学年

物理 化学 生物 地学

<日時>
令和2年10月2日(金)
13:50~

<会場>
見附市中央公民館

主催: 見附市教育委員会

①テーマ設定をしよう

まずはテーマ設定が大切になります。自然の中や、授業で学んだこと、生活の中にある素朴な疑問が出発点です。「どうしてだろう?」と興味をもったことについて研究できると良いでしょう。

②調べ方(観察や実験)を考えよう

テーマを基に明らかにしたいことを考え、解決するための方法を考えます。データを正確に集め、再現性がある実験を計画しましょう。

③観察や実験で調べてみよう

調べたい条件を揃えて、比較していきましょう。実験ならば繰り返し行い、観察は毎日続けましょう。新たに疑問に思ったことがあれば、それについても追究できると良いでしょう。

④研究結果をまとめよう

表やグラフ、図を使って、読む人がわかるようにまとめましょう。「研究の動機」→「研究の方法」→「観察・実験」→「結果」→「明らかになったこと・まとめ」の流れで研究を形にしましょう。

令和2年度 見附市児童生徒 夏休み作品展

発明工夫 工作 標本 観察記録

入場無料

<日時>
令和2年9月26日(土)~27日(日)
9:30~16:30

<会場>
まちの駅「ネーブルみつけ」多目的広場

主催: 見附市教育委員会 見附市学校教育研究協議会 見附市教育センター

【発明工夫】

○便利なものや飾り、おもちゃなどを作成

【工作】

○身近なものを使って動物などの模型を作成

【標本】

○昆虫や植物、貝などの標本を作成

【観察記録】

○植物や動物などの観察記録を作成

例年、さまざまな作品が出品され多数の方々が来場されます。児童・生徒が工夫を凝らした作品になるようにご指導ください。多数の作品を楽しみにしています。

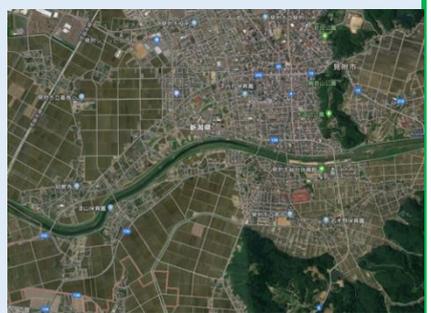
科学の公園

記録的な豪雨の年～7.13水害から何を考える～

平成 16 年 7 月 13 日に「新潟・福島豪雨」が発生しました。ここ見附市でも刈谷田川が氾濫して大きな被害を受けることとなりました。この水害から 16 年が経過しました。当時、まだ生まれていなかった今の見附市の小学生・中学生は、今年の全国的な大雨による水害に何を思うのでしょうか？

見附市では、7.13 水害の記憶を風化させないために河川改修工事の埋め立て地に「パティオにいがた」を建設しました。治水対策として、遊水池と田んぼダムを整備しています。平成 23 年 7 月 30 日にも一時は 7.13 水害を超える雨量を記録しましたが、堤防が決壊することはなく被害を軽減できました。

さて今は、コロナウイルスという目に見えないウイルスとの戦いが続いています。人類の歴史はウイルスや自然災害との戦いです。特に見附市にある信濃川水系である刈谷田川は暴れ川として知られていました。もともとは全域で川幅も狭く、大きく蛇行している箇所があり、何度も洪水被害を引き起こしていたのです。1919 年と 1941 年に大規模な河川改修を行い、東西へ延びる直線状の河川になりました。右の写真は刈谷田川の現在の航空写真と過去の航空写真です。過去の写真からは改修前の名残があることがわかります。



現在の航空写真
(Google マップより)



1946 年の航空写真
※(地図・空中写真閲覧サービスより)



(流水の外側の侵食)



(流水の内側の岩石の堆積)

また上の写真は、見附市杉沢町付近の刈谷田川のドローンで撮影した航空写真です。流水の内側には土砂が堆積していることがわかります。水面付近で撮影してみると、流水の外側は水のはたらきにより削られ露頭が観察できます。内側に堆積した土砂は、それぞれの粒が丸みを帯びていることに気付きます。小学校 5 年生「流れる水のはたらき」の学習では、地域の映像や写真を用いることで、児童の興味を高めることができます。河川の働きについては、理科の学習だけでなく、社会の学習でも河川と人の暮らしの関係でも学習します。河川の流れに沿うように人類は、暮らしを築いてきました。自然にはさまざまな恵みと牙をむくような災害の側面があります。私たちは自然と共存していくために、今回の大雨による災害について他人事ではなく、自分事として考え、常に何かあったときの備えをしていくことが必要です。

ドローン画像等を授業に活用したい場合は教育センターにお問い合わせください。

引用画像 ※地図・空中写真閲覧サービス：<https://mapps.gsi.go.jp/maplibSearch.do#1>